

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300200		
法人名	社会福祉法人 三ツ葉会		
事業所名	楓荘グループホーム 牧の家	ユニット名	そよかぜユニット
所在地	宮崎県延岡市牧町4651番地		
自己評価作成日	令和3年8月2日	評価結果市町村受理日	令和3年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和3年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設7年目を迎え、開設当初の職員が出産や異動等で半分以上入れ替わったが、業務優先にならないよう、継続した声掛けを職員同士続ける事で、入居者優先の流れを維持できている。コロナ禍の為、地域交流として続けてきた地区行事への参加、小学生の自由来館、買い物や遠足等の外出は自粛している。それでも、地域住民の方々や小学生との挨拶や会話は継続できている。外出等ができない為に、施設内での活動が主となっているが、Webの活用での体操や敷地内畑での作業、今できる事を大切にしていこうと、季節の行事、誕生日等のイベントを大切に、入居者の方々に刺激のある生活を送ってもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者の思いや要望を汲み取り、今できる事を大切に支援している。料理、家事、散歩等、生活全般に亘り本人がしたい事を最優先にしたケアに取り組んでおり、利用者の明るい笑顔や残存機能の改善に繋がっている。又、地域との関係は良好に構築されているが更なる連携向上を目指し、今までの関係の見直しや新たな関わりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議で理念について話し、職員の行動を振り返る時にも理念に基づいて話をする事で、理念の共有D6:E13、実践につなげている。	理念は共有している。地域との関係性の取り組みや利用者本位の行き届いたケアの中に理念が生かされ実践されている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の一員として、区に属し、回覧板や地区行事への参加(今年度は職員のみ)をする事で、日常的に交流している。	近隣住民より花の差し入れがあったり、散歩や通りすがりの方への挨拶など交流に努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の事でお困りの方が相談に来た時など、話を聞いたり、必要に応じて、包括支援センターにつないでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、開催回数は少ないが、開催できない時は書面や口頭での情報共有を図り、サービスに活かせるようにしている。	令和3年3月まで会議を開催している。その後は感染症対策のため書面にて利用者の状況等報告を定期的に行っている。要望や助言を受けてサービス向上に生かすように取り組んでいる		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告や相談事など、状況に応じて連絡を取るようにしている。	行政職員とは必要に応じて相談や助言をもらって利用者へのサービス向上に繋がるよう取り組んでいる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会参加や、身体拘束ゼロを基本として対応している。入居者の症状に応じて対応しているので、身体拘束はしていない。	ユニット間は自由に往来できるため、職員は他のユニットの利用者に対しても声掛けや見守り等を行い、自由な暮らしを支援している。感染症対策のため玄関は施錠しているが、利用者は内側から開けることができる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会への参加、日頃からの意識を高め、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修会への参加や、必要な状況になった場合には関係者に相談し、ご家族へ情報提供をしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時には専門用語ではなく、解りやすい言葉で、質問等を受けやすいよう、配慮をしながら説明している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来設時にはできる限りご家族と管理者が会話をする機会を作り、そこでの会話の内容等、必要なものは職員に共有する。また、管理者携帯の携帯電話にご家族から連絡しやすい様にしている。	家族に寄り添い話しやすい雰囲気づくりに留意している。食事が低下した利用者の好みなどを聞いて食事量の回復が図られたり又、楽しく生活してもらいたいと言う要望では食事会やイベント等に工夫するなどサービス向上に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人の振り返りレポートを勤務毎に記入、提出してもらうことで、その内容によっては職員に管理者から声をかけ、会話をする機会を作り、意見や提案をしてもらっている。会議でも、発言する機会を皆に持ってもらっている。	勤務毎に記入された職員の振り返りレポートを活用し、意見や要望は会議の場で確認決定しスピード感を持ってサービスの向上に反映している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備を常に考え、時間、備品等の充実、賞与や時間外手当など、処遇改善に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修を始め、希望する研修にも参加できるよう、配慮している。また、研修で学んだ知識や資料は職員間で共有している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、相互訪問等はできていないが、他事業所の管理者等と電話で意見交換したり、お互いに質問をしたり、現状の確認等、取るようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない間は環境の変化等、ご本人が一番不安なことを考え、しばらくの間は職員もできる限り一人付いているようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する段階では認知症の症状でのお困りの状況なので、時間をかけて話を聞き、業務的な対応にならないよう、気を付けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族は入居時点では認知症の為に関係性がうまくいっていない可能性が高いので、入居する事でいい距離感ができて、より良い関係性に戻られる場所になれるよう、気をつけている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方を人生の先輩として敬い、施設という小さい社会の形成の一員として、職員も環境の一部であることを意識している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居したからといっても、ご家族もともに本人さんの生活を一緒に支えていってもらうよう、入所時に話をしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の前は、色々と継続的に関りをもつようにしていたが、感染対策の為、施設内での生活が中心となっている。	感染症対策の為、窓越し面会やオンライン面会を活用している。利用者の細かな変化等随時家族に報告して、繋がりが継続できるように支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居期間の長い方や短い方、年齢や性別も違うが、同じユニットの入居者同士が穏やかに生活できるよう、職員が間に入り、環境づくりをしている。			

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、状況確認や施設探し等の助言をしたり、相談に乗るなど、関係性の継続を図っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のやりたいことがあれば、できる限り実現できるよう、職員同士、家族で情報共有し、対応できるよう、努力している。	意思疎通困難な場合はその時その時の行動や表情を汲み取り把握している。把握した情報は記録し職員全員で共有し対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までやってきたことや、できている家事等、できる時にはやってもらえるよう、職員が準備、配慮をする。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要な情報は電子カルテに入力し、各職員が勤務時に確認、把握し、その上で職員同士の情報共有を大切にしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議、記録、モニタリングなどを踏まえ、それぞれで出た意見を踏まえた介護計画作成をしている。	職員や関係者で話し合ったアイデアを反映した利用者本位の介護計画を作成している。介護計画はいつでも閲覧でき、計画と日々の記録の連動が図られている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録が必要な情報になるように意識し、その情報を共有し、実践に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、他事業所の利用を紹介したり、コロナ禍の状況ならではの食事のサービスを利用するなど、柔軟に対応していくようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域交流が出来ていないが、職員は地域住民との挨拶や会話を大切にしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を基本とし、受診人は家族対応で受診をするが、病院が必要と思われる情報を「病院受診シート」を作成し、家族に説明し、持参してもらう。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが、同法人内の看護師に相談したり、受診先の看護師との情報共有を図れるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はすぐに入院医療機関に連絡し、現状や経過の把握ができるようにしている。病院には出向けない状況だが、電話での連絡を密にしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期への対応については入所時、状態変化がみられる場合とう、状況におうじて、ご家族に説明をしている。また、必要時には他の施設、医療機関との調整もしていることを伝えている。		入所時に重度化や終末期の対応について説明している。状態が変化した場合には、家族や関係者、医療機関等と十分に話し合い、希望に沿えるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の勉強会には毎年、参加している。急変や事故発生に当たった職員は、他の職員への情報共有を図り、次の状況に備えられるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練、防災教育等を色々な状況を設定し、実施している。また、運営推進会議を通じて、地区長にも協力依頼をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方を人生の先輩として敬い、声掛け、対応しているが、時折、なれ合いになっってしまう事があるので、そこは注意している。	入社時に「接遇」について勉強会をしている。又、会議時など利用して再認識している。すべてのケアにおいて特に居室やトイレの出入口等、自分だったらと置き換えて配慮するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に施設に決まった日課はないので、入居者の方々が動きやすい様に配慮をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで生活できるよう配慮し、偏りがでないような声掛け等でサポートしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感、清潔感のある服装になるよう、本人の希望はもちろんだが、選べない、わからない時はサポートをしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事も盛り付けや色味も工夫し、美味しく食べていただけるよう、工夫している。また、季節を感じるメニューや誕生日食、行事食と食事を楽しんでいただける工夫をしている。	食事が一番の楽しみなので旬の食材はもちろん誕生会やイベント等職員間で話し合い計画し実行している。利用者が食べたいものをリクエストする時はメニューを変更して提供することもある。調理にも参加してもらうことがある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量にムラがある人や体重の増減等が感じられる方は職員間で情報共有し、必要に応じて食事摂取量や水分摂取量のデータを取り、補助食品の提供につなげたりしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、一部介助を実施し、義歯洗浄等はサポートしている。			

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導、行動をみながらのトイレ誘導等、職員間で情報共有し、トイレでの排泄ができるよう、工夫をしている。	排泄確認表、電子カルテ等を活用し利用者が気持ち良く気分を害せず排泄や処理ができるよう、さりげない配慮をしてトイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。「失禁＝紙パンツ」に直決する概念はなく、半数以上が布パンツで対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や果物等の繊維の摂取、または下剤の調整を行い、排便コントロールを気付けている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日を決めず、その時の状況や本人の希望に応じられるように、柔軟な対応を皆で心がけている。	入浴実施日の記録を元に入浴者の調整をしている。受診前日はできるだけ入浴させる配慮や汚染した時にはその場でも入れるよう職員間で協力声掛け対応している。夜間の入浴者もいる。一人ひとりの好みに応じた温度設定を心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活や傾眠の状況の申し送りや、日々の夜間の状況の把握をすることで、安眠につながるような工夫をしている。眠れない場合には焦らずに、夜勤者が寄り添うようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに添った対応をしている。必要に応じ、医療機関や薬局に確認を取るようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今できる事を大切に、料理や家事、散歩など、できる限り実施している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、市内のドライブ程度であるが、気分転換を図っている。	感染防止対策の為、個々のドライブ等の対応となっている。又、近隣への散歩も支援している。ホームの菜園で玉ねぎ、ジャガイモ等の収穫や草取りなど支援し気分転換を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方もいるが、現在は買い物に行けていない状況である。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が送られてくる場合は本人が読めるよう、サポートする。電話はかかってきたらつなぐし、ビデオ通話等の活用もしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不必要な飾りを付ける事はほぼなく、季節に応じた飾りつけがある程度である。居室の中は本人、ご家族にお任せしている。		必要以上の装飾はせずシンプルにして落ち着いて過ごせるようにソファ等配置している。換気を定時に実施しているが寒い季節は利用者に声掛けしてから行っている。共用空間の温度、湿度の記録を取り調整を行い居心地良く過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パブリックスペースのどこでもゆっくりできるよう、イスやソファが配置されている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の私物や家族の持ち込み品で、なじみのある環境になっている。		使い慣れた枕やクッション、テレビ等が持ち込まれ本人、家族の希望に合わせた居室作りがしてある。全室トイレと共に手摺が取り付けられてあり安全面にも配慮された作りとなっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要以上に物を置いたりせず、手すりをつたって歩いたり、自分のペースで動きやすい様に配慮している。			